

漁況情報 No.22 平成 19 年 12 月 13 日発行

岩手県水産技術センター 漁業資源部

Tel : 0193-26-7915、Fax : 0193-26-7920、E-mail : CE0012@pref.iwate.jp

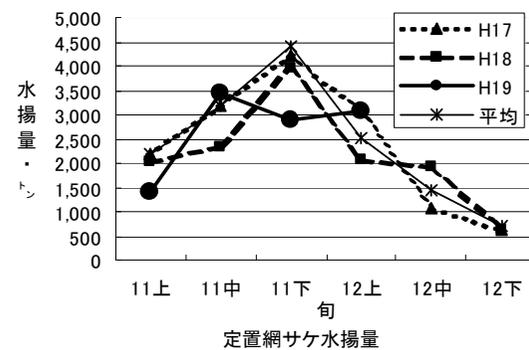
*本報は <http://www.pref.iwate.jp/hp5507/> に掲載しております。

<< トピックス >>

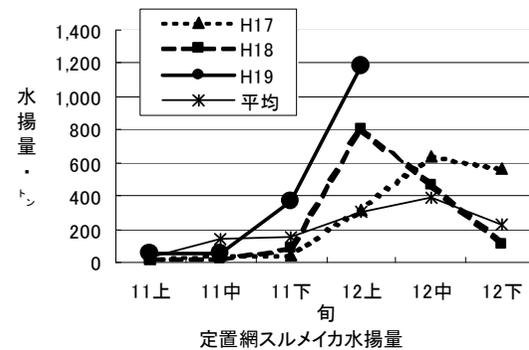
サケ(定置網)の水揚げは前年を上回りました。
スルメイカ(定置網、イカ釣り)の水揚げは好調です。

1. 水揚げ状況

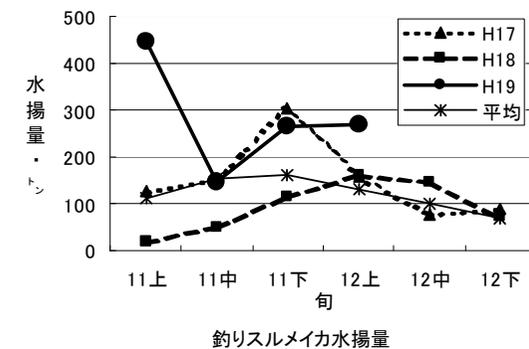
(1) サケ(定置網)は宮古を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は3,070トン(前年同期の1.5倍)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は2,506トンで、旬水揚げはその1.2倍でした。年累計は13,719トン(前年同期並)です。



(2) スルメイカ(定置網)は宮古、山田を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は1,187トン(前年同期の1.5倍)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は300トンで、旬水揚げはその4.0倍でした。年累計は3,249トン(前年同期の1.3倍)です。



(3) スルメイカ(イカ釣り)は久慈、大船渡を中心に水揚げがあり、12月上旬の水揚げ量は271トン(前年同期の1.5倍)でした。また、12月上旬の過去5年間の平均水揚げ量は130トンで、旬水揚げはその2.1倍でした。年累計は7,737トン(前年同期の5.4倍)です。



*水揚げ状況は主要6港(久慈、宮古、山田、大槌、釜石、大船渡)の集計による。

2. 調査結果、その他の情報

◎スルメイカ精密測定結果

12月上旬に水揚げされたスルメイカ(釜石魚市場、定置網)の精密測定を行いました。体長は23~26cm主体で、11月下旬の漁業指導調査船岩手丸の底曳網調査によるサンプルとほぼ同様でした(図1)。また、メスは成熟していなかったものの、オスはほぼ全ての個体が成熟していました。

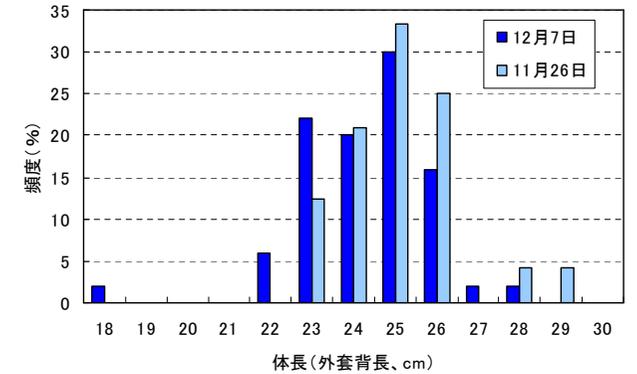


図1 スルメイカ体長組成

◎岩手丸によるトロール調査結果について

平成19年11月26日と30日に釜石沖合の4地点(水深200~350m)で着底トロールによるタラ類の加入量調査を行ったので、その結果をお知らせします。

本調査で観測された海底付近の水温は、水深200m付近で10~11℃と前年同期よりも5℃程度高く、水深300m付近でも4~5℃と前年同期より1~2℃高くなっていました。

本年度の調査では、マダラは水深300~350m付近のみから採集されました。体長14cmにモードを持つ本年生まれの分布密度は、前年同期の1%に満たない水準(84尾/1000km²)と推定され、体長30cmにモードを持つ前年生まれでは、前年同期の40%程度(380尾/1000km²)と推定されました。一方、スケトウダラは水深300m付近のみから本年生まれのみが採集され、その分布密度は前年同期の3%程度(516尾/1000km²)であると推定されました(図2)。

本年度の結果は、マダラ、スケトウダラともに平成16年以降最低水準となっており、本年生まれの本県沖合への加入が前年に比べて大幅に減少したことを示しているとみられます。

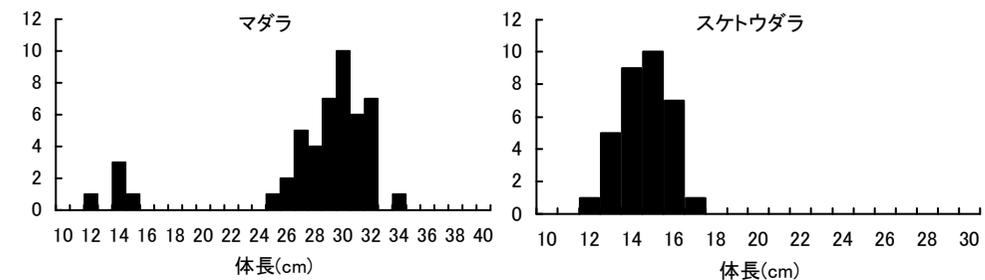


図2 着底トロール調査で採集されたマダラとスケトウダラの体長組成

「フィッシャリィ・ネットいわて」(<http://www2.suigi.pref.iwate.jp/>)で、日別・市場別・魚種別の水揚げ状況、定地水温などを検索できますので、こちらもご活用下さい。